

くろっけ

平成六年七月二十七日第三種郵便物認可
平成二十一年九月一日発行(毎月一回一日発行)
第十六巻第五号(通巻第一八五号)

鈴



くろっけ

俳句雑誌

GLOCKE

第185号

9. 2009

癩性

品川鈴子

月見草駅に改札など無くて

片頬の紅づく棗朝のキス

切り株に八重なすフリル梅雨きのこ

いちじく割り乳濡れの手は妣^{はは}の齡



いちじくを頬ばり癩性どこへやら

秋暑し刻打ち人形撥遅れ

指裂きの水茄子あれば足る昼餉

石棺の蓋苔むしろ花つけて

印南のとかげに譲る座禅石

人柱ありにし池に青みどろ



玉

鈴

吟

兵庫 木村 美猫

沙羅の花御子横抱きに摩耶夫人
京の空見遣る宿場に門清水
手のひらに灯る螢を子に見せる
三角の岩に踏ん張り鮎を釣る
雨やどり茉莉花かほる軒先に

兵庫 國永靖子

梅雨晴間紙垂ゆるる能舞台
青鷺の池統べるごと動かざる
蜘蛛の囀や狛犬に彩残りをり
國境ゆく五能線卯波寄す
白神の山音消さる走り梅雨

藏本博美

駒繫一輪咲きしを見つけたり
夾竹桃白きにひかれ仰ぎ見る
リハビりにビール恋ひしき療養棟
梅雨空に君待ちわびる病ひ床
リハビリの窓に迫れる入道雲

兵庫 栗田武三

背にいつも何かの気配岩魚釣
先行者あるを知らずに岩魚釣
光琳の斑を連ねたる山女魚かな
透きとほる流水の火に山女魚焼く
山水の一景となり鮎釣師

兵庫 小阪律子

潮干潟休校解除の声弾け
三連の巨大水車が田水張る
田水張り頭上足下の蒼き空
銅鏡のごとき明日香の代田水
早苗田に赤米と記す札傾ぐ

東京 後藤とみ子

くもり空に花一つ二つ泰山木
故郷より赤い目高を連れ帰る
近づくと大白鳥なり遊覧船
館へは藤のアーチをくぐり抜け
外は梅雨和ものオペラの化粧濃く

大坂 小林 玲子

緑陰の句碑も長身雄雄しかり
春寒の旅を勞ふ伊予訛
春日傘何度もおじぎして別る
素食てふ僧ふくよかに夏衣
大屋根の青銅あかり春陰に

香川 近藤 倫子

蠅螂生る産毛のやうな鎌を持ち
麦の秋金管の音の揃ひたる
麦の秋告白上手く躲されて
梅雨めきて禁煙も中休みらし
くちなはを踏むドライブとなりけり

兵庫 佐方 敏明

休校の間に校庭の枇杷熟るる
小町草母命日の供花にせむ
碧き眼の新郎和装緑立つ
大男シヨコラケーキとソーダ水
モンローのごとき豌豆はじけたる

東京 佐田 昭子

手に掬ふ四万十川の草清水
万緑の嶺目覚めさす法螺の音
雲海の茜地獄に染まりゆく
初夏や旅で求めし鈴二つ
雲の峰ジョン万次郎記念の碑

兵庫 塩出 眞一

淡竹の子買ふを頼まれ吟行す
四十雀賽銭箱に巢籠れる
銅山は廢れて鮎の川激つ
葉の日ゆつくり伊吹山歩く
校庭の池に緋めだか投票す

香川 島内 美佳

夏木立練習試合続きをり
部員らで衣裳制作窓若葉
麦の秋活字の人に出会ひたる
鴉の子守るため親の鳴き続け
燕の子 日本人の庇護の下

島 純子

杜若近江の里を色紙にす
波しづか安宅の関はみどり盛る
落差の智慧最古の噴水兼六園
田植する一人・二人の千枚田
千里ヶ浜夏波洗うタイヤ跡

島本 知子

キャンプの火繩文人になったよう
話し声やつと途切れしキャンプの夜
キャンプの夜どこの家族も円満に
キャンプ村朝のチャイムが響きけり
テント出て空の青さのまぶしかり

薬草歳時記

(二八四) ジュズダマ (数珠玉) とハトムギ (鳩麦)

八木紀子

ずず玉や普通ひし叔父が家

正岡 子規

ズズコの色付く九月、まるで葉に守られるかのように四つ五個の玉がひと束になりキフキフと美しいです。未だ軟らかい黄玉、硬く鮮やかな黄緑、焦茶、そして灰色、真つ白な玉これは種子が実らなかつた「しいな」です。この硬く光る殻は葉が変形したもので苞鞘と呼び澱粉に富む種子を食害から守り、中に空気を含み水に浮き種を運ぶ。数珠の玉に使つたの名は数珠玉で、栽培用の鳩麦 (鳩の食う麦の意味) の原種。

世界に五種、国内に一種が分布。両者は外見、性質、用途がほぼ同じです。違いはズズコの実は平滑で花序が直立、鳩麦は縦溝があり垂れる。胚乳の澱粉がズズコはうるち米に似てヨードで青色、ハトムギはもち米に似てヨードで赤紫色に呈色することで区別。

鳩麦の殻を割ると白い種子がでる、これが生薬の^{よくい}薏苡仁です。漢方で消炎・駆水・鎮痛・排膿・利尿剤として疼痛化膿症などに用い、民間薬としては江戸時代に片倉鶴陵が初

めてイボ薬に用いた。今もイボコロリとして用いる。保湿効果にすぐれ美肌薬に。元来が穀物で安全で栄養価が高く、健康茶として殻付きのまま煎じればハトムギ茶です。数珠玉の生薬名は川穀 (実) と川穀根で同じ薬効です。熱帯アジア原産で中国から渡来的一年草の両者の一代雑種は越年草となり旺盛な草でサイロ用の飼料作物です。学名は花序の印象から旧約聖書のヨブの涙。別名も唐麦、四国麦と他に多い。糸を通せば腕輪に、詰めてお手玉、鉄砲玉と遊びの定番ズズコは秋の野によく見かけたイネ科の雑草。今や探すのが難しい。鳩麦の大部分は中国、東南アジアからの輸入品とか…。鳩麦生産日本一の小山市 (栃木県) と北津軽福浦の生産者から種を頂き育てました。二千年前の中国の薬物書「神農本草経」に記されている鳩麦を、効いたよの声を頼りに只今試し中です。煎じた茶はとろみが少しあり甘く熱いのがおいしいです。ヨクイニン飯を食べ、化粧水もパタパタつけて、きれいになったかしらと楽しみます。お試し下さい。

漢方処方 参苓白朮散・麻杏薏甘湯・薏苡仁湯

参考文献 『日本薬草全書』 新日本法規

『横浜の植物』 横浜植物会

『原色牧野和漢薬草大図鑑』 北隆館

著者略歴 神戸薬科大学卒

ハトムギ(シコクムギ、トウムギ) (ジュズダマ属) (いね科)
Coix lachryma-jobi L. var. *ma-yuen* (Roman)
 Stapf (= *C. ma-yuen* Roman) (鳩麦、四国麦)



須賀悦子画
 草丈：1～2m
 一年草

雌花穂 柱頭
 雄花
 花期：8～10月
 薬用部分：種子
 種子 (ヨクイニン)
 果実：軟質
 収穫期：9～10月

ジュズダマ (ジュズダマ属) (いね科)
Coix lachryma-jobi L. (数珠玉、薏苡)



8月初旬描く
 花期：8～9月
 薬用部分：果実 (センコク)
 草丈：1m程
 多年草
 採取期：10～11月
 10月中旬描く

吟行に摘みし数珠玉供へたり

*塩出 眞一

(* ぐろっけ)

数珠玉を子より贈らる誕生日

*佐田 昭子

入口は数珠玉繁る秘密基地

*片野 光子

数珠玉や家のまはりに水消えて

岸田 稚魚

数珠玉のいつまでも玉を生むかなし

田村 木国

数珠玉や野川ここより北へ急ぐ

石田 波郷

数珠玉は刈り残されぬ土堤の腹

石塚 友二

庭のものをつきつきに詠み数珠子玉

富安 風生

ずずだまの穂にうすうすとほき雲

長谷川 素逝

数珠玉を植ゑて門前百姓かな

村上 鬼城

鈴の奏

品川鈴子選

訓練士犬の目捉へ風五月 兵庫 前田 玲子

母の日のお手伝券今無効

天道虫犬の一撃受けて発つ

天瓜粉二人並べてパタパタと

雨に濡れ埃も被り竹床几 香川 石川 裕美

船酔ひに顔青くして夏帽子

かさぶたをこわごわ剥けり五月闇

捕虫網持ちて隣家の木に登る 兵庫 大西 和子

夏みかん肥後もつこすの添書も

夏の海舞子台場に陶の砲

蔵一つ車庫に改造花南天

さみだるるルソンに果てし右近像 兵庫 吉本 淳

玉葱の玉の白さを愛しめり

重き足曳きずる帰路にほととぎす

朴の花真澄の空と対面す

五月雨や出窓の雀天仰ぐ 兵庫 櫻木 道代

潮の香と淡き鳥影ソーダ水

荒梅雨や街をつらぬく川迅し

泰山木山の端の雲動きそむ

梅雨寒やまづコーヒーとオムレツと

咲き重る枝たわたわと藤の房 山口 山本 敏子

そこのみに風あるごとく桜散る

父の忌を忘れていたり紫木蓮

薔薇真紅芯まで剥がすわが妬心 兵庫 本木下清美

葎障子オール電化に切り替へて

たたき地蔵たたかれどほし青嵐

青嵐十字架仰ぐ右近像

大正の律義な夫の夏袴 兵庫 平田恵美子

海を見て鉢にバセリをよく育つ

播州の青田飛びこむ新快速

お喋りも共に呉れたる穴子鮎

紫を纏ふ鈴子師花菖蒲 兵庫 有本 勝

ピカソ展出でて眩しき薄暑かな

芹洗ふ一束づつの濁りかな

秀 鈴 記

巻頭 三句 品川鈴子 評
四句〜十五句 大井邦子 //

*選句は全て 品川鈴子

母の日のお手伝券今無効

前田 玲子

お手伝い券は、既に独立した子ども達がかつて母の日のプレゼントにくれたもの。子ども達の気持ちがかもつているので、今でも大事に持っている。とつくに大人になって今では高価なプレゼントも届くが、その頃の可愛らしさに勝る贈り物はまたとなからう。

船酔ひに顔青くして夏帽子

石川 裕美

夏帽子で元気に乗り込んだのに、船が岸を離れるにつれてだんだんと無口になってきて、青い顔で吐き気をもよおしている。いつものお転婆はどこへやら、夏帽子のおしゃれも台無しのお船旅。

さみだるるルソンに果てし右近像

大西 和子

安土桃山時代のキリシタン大名高山右近は、摂津高槻、後に播磨明石城の城主で茶人でもあったが、禁教令によって追放され、六十三歳の時ルソン（現在のフィリピンの首都マニラ）で没した。慣れない船旅で雨季の異国に病を得て故国の五月雨を思いながら果てたのであろう。スペインのフィリピン総督が全市を挙げて手厚く弔ったとか。

五月雨や出窓の雀天仰ぐ

吉本 淳

田植時の雨は稲作にとって大切。降りつづく雨に雀達は飛び回ることも儘ならず恨めしいことだろう。今年の梅雨は八月に入ってやっと、梅雨明けが発表された所もある。私達や雀達にとつても豊作の年でありますように。

潮の香と淡き島影ソーダ水

櫻木 道代

けだるい暑さの中でスーと喉元過ぎるソーダ水。透き徹っ

たグラスにシユワシユワと微かな音を立てながら泡が立つ。川や海の近くで育った私には、この句から久しぶりに潮の香を嗅いだように感じる。ソーダ水の季語で爽やかに仕上がっていると思う。

薔薇真紅芯まで剥がすわが妬心

山本 敏子

いったい何が有ったのでしょうか。芯まで剥がすとは大変な御様子。薔薇の美しさに嫉妬？真紅な薔薇と言えば恋を連想してしまいますが、どうぞ冷静に。

葭障子オール電化に切り替へて

本木下清美

夏になると障子や襖を外して、室内によく風が通り見た目も涼しい葭を編んだ建具に入れ替える。冷房等が普及したせい、一般家庭では見ることも少なくなつた。

作者は電化された御住まいで快適な生活を送つておられることでしょう。

播州の青田飛びこむ新快速

平田恵美子

植田の苗はしばらく見ないでいると、みごとに青田になり水が稲に隠される程になっている。緑一色になっている田園風景は、目に染みる。農家では実りの秋が来るまでは、数々の苦勞と手入れでお忙しいことだろう。

母の日や筆筒の隅の毛糸棒

有本 勝

お母様愛用の毛糸棒を手にした時、色々の思い出が蘇つて来たことでしょう。何でも手作りの時代に大いに活躍した毛糸棒だつたと思います。

夏風邪で休校の子に無き居場所

津田 霧笛

休校になつて子供達は自宅待機。学校からは色々と注意事項があり、元気な子も外に出ることが憚られる。春に世界中に流行した新型インフルエンザだが、影をひそめているものの秋の第二波も懸念される。咳、くしゃみ一つにも神経を使う。